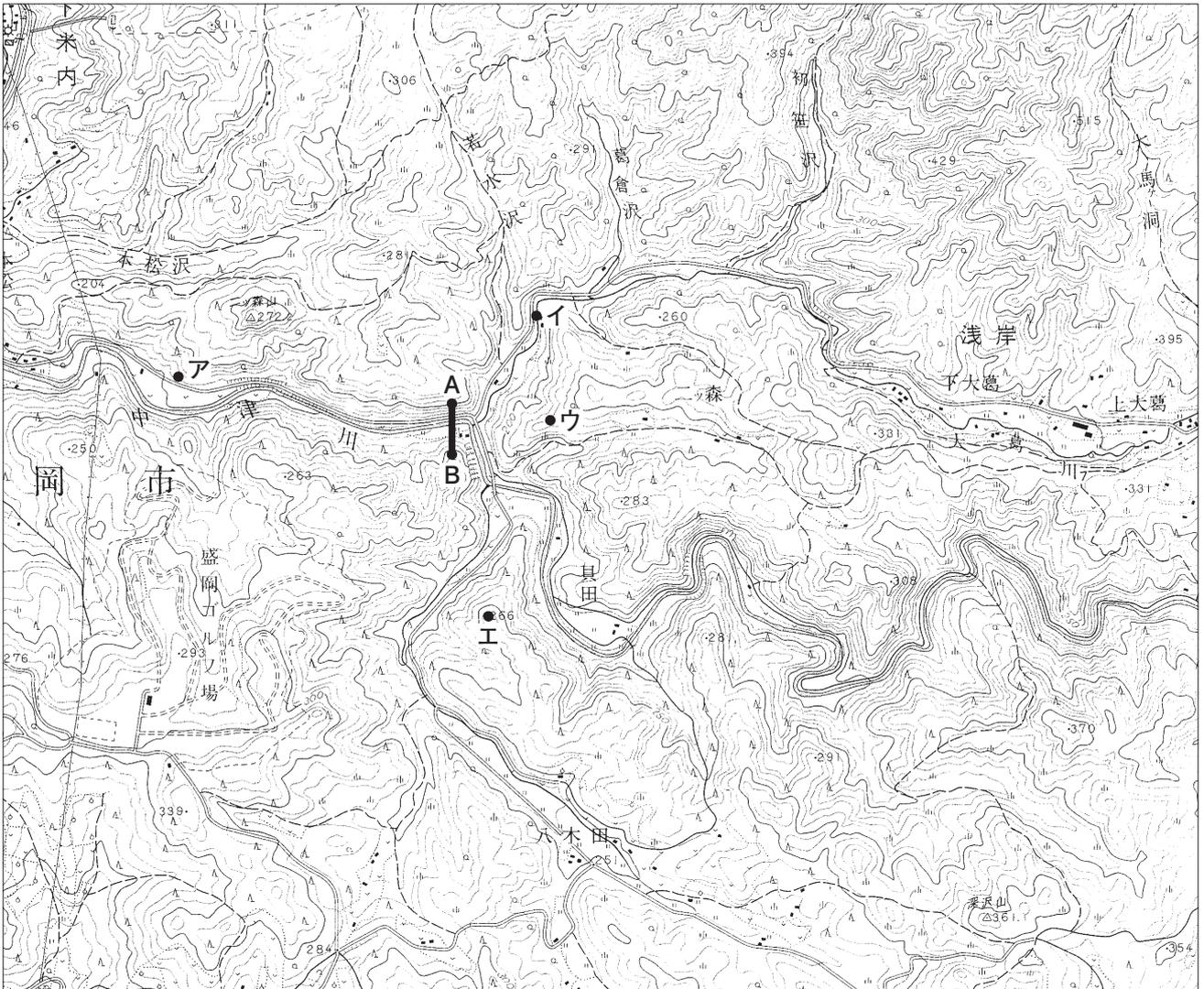


問 2 アユさんは盛岡市周辺のダム開発に興味をもち、ダムが建設される以前の地形図である資料 3 を得た。資料 3 中を流れる中津川では、治水のために 1981 年に網取ダムが建設されている。資料 3 中の A - B の間にダムを設置した時に、ダムの水面下となる地点を、下の ①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 18。

資料 3



(国土地理院発行 25,000 分の 1 地形図「盛岡」, 昭和 49 年発行に一部加筆)

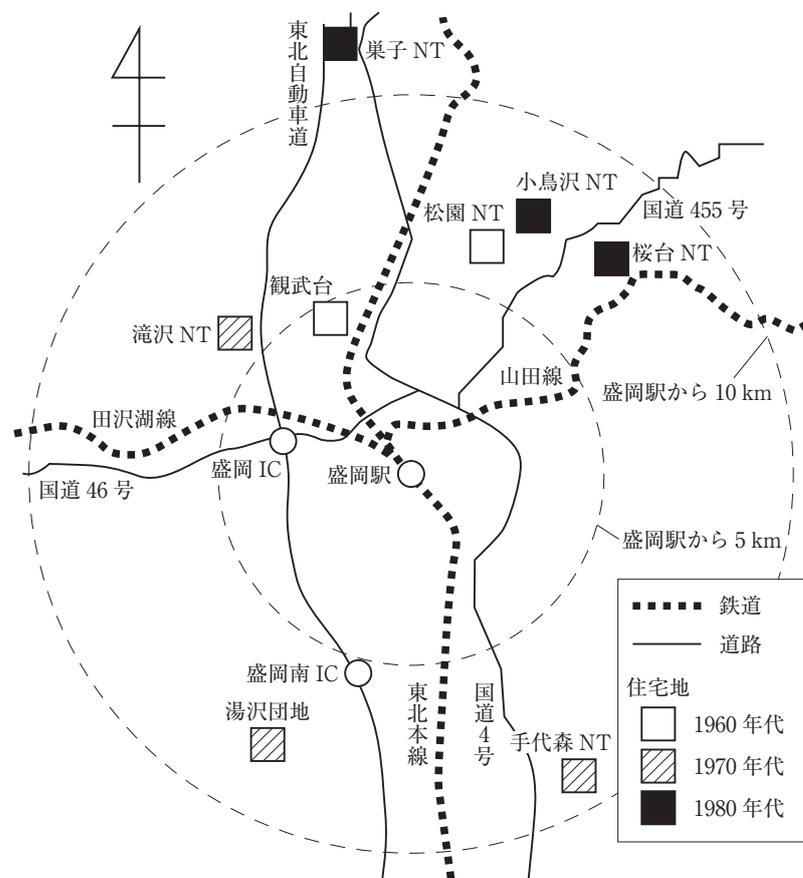
- ① ア ② イ ③ ウ ④ エ

問 3 アユさんは盛岡市周辺のニュータウン開発に関心をもち、資料4～資料6を得た。これらの資料を読み取った文として最も適切なものを、あとの①～④のうちから一つ選べ。
 解答番号は 19。

資料4 盛岡市周辺におけるニュータウンの開発開始年と開発面積

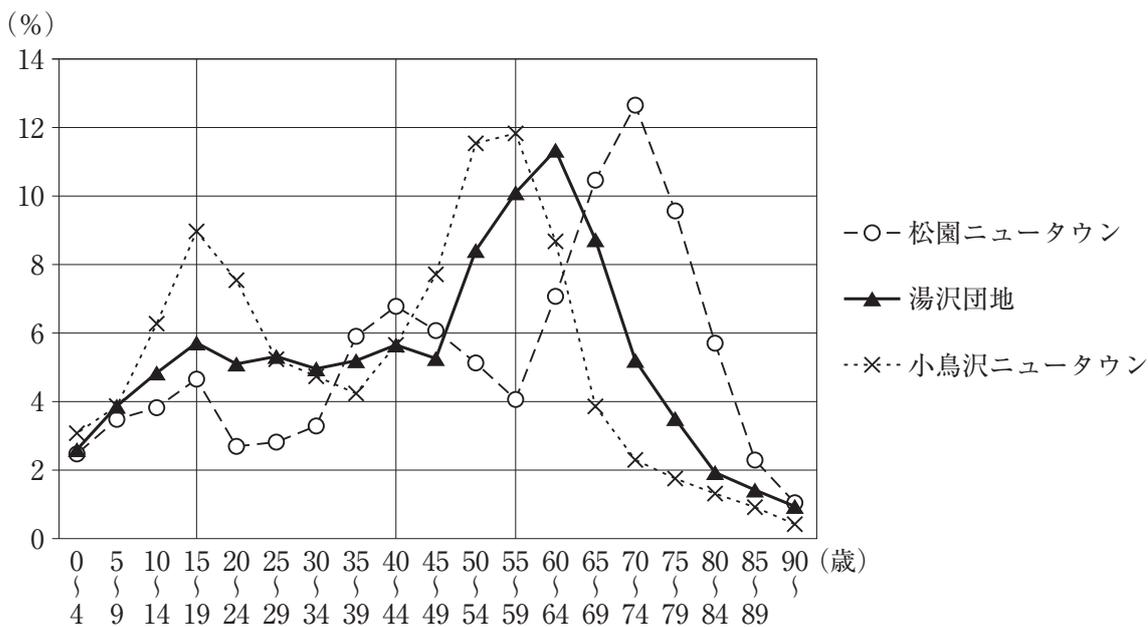
名称	開発開始年	開発面積
観武台	1965年	23.8 ha
松園ニュータウン	1969年	217.3 ha
滝沢ニュータウン	1974年	49.3 ha
湯沢団地	1977年	62.2 ha </td
手代森ニュータウン	1979年	21.2 ha
巢子ニュータウン	1982年	20.2 ha
桜台ニュータウン	1983年	45.3 ha
小鳥沢ニュータウン	1986年	40.5 ha

資料5 盛岡市周辺におけるニュータウンの立地



注) 図中では、ニュータウンをNTと表記している。
 (「盛岡都市圏における宅地開発とその諸特徴」により作成)

資料6 盛岡市周辺のニュータウンの住民の年齢構成(2014年)



注) グラフの縦軸の数値は、各年齢層の全人口に占める割合を示す。

(盛岡市ホームページにより作成)

- ① 資料4から、盛岡市周辺のニュータウンの開発面積は、開発開始年が新しいニュータウンほど大規模な傾向にある。
- ② 資料5から、盛岡市周辺のニュータウン開発は、1980年代には盛岡駅より南側の地域において開発が行われた。
- ③ 資料6中の3か所のニュータウンの15～19歳、40～44歳、55～59歳の各年齢層を比較すると、3か所全てのニュータウンで、55～59歳の割合が最も高い。
- ④ 資料6中の3か所のニュータウンは、資料4から、開発開始年が早いニュータウンほど65歳以上の老年人口の割合が高い。

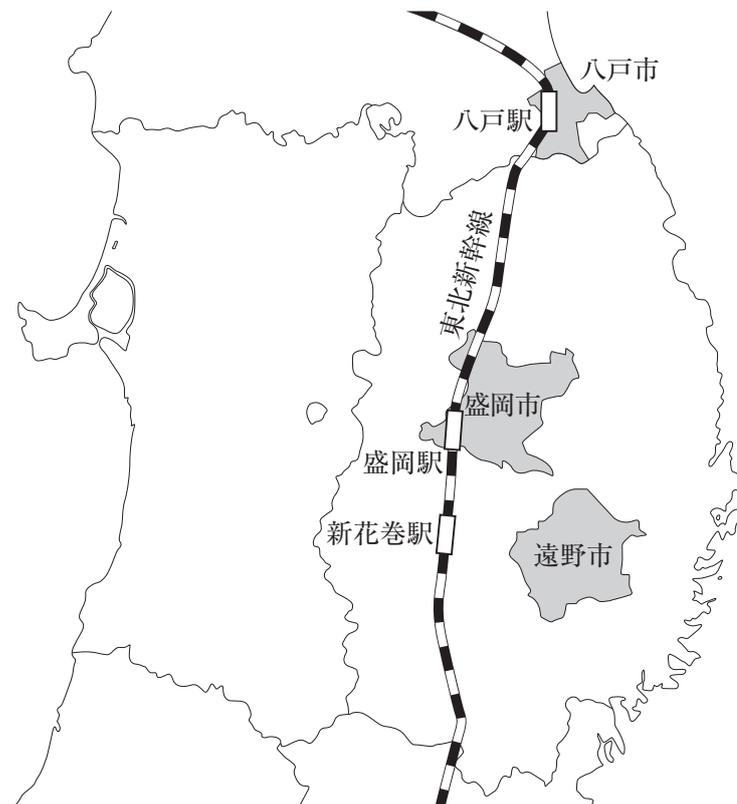
問 4 アユさんは、盛岡市が南部藩ゆかりの市と「平成・南部藩」を結成し、交流を深めていることに興味をもち、資料7～資料9を得た。資料9中のA～Cはそれぞれ「平成・南部藩」である八戸市、遠野市、盛岡市のいずれかを示している。A～Cと市の組合せとして最も適切なものを、あとの①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 。

資料7 盛岡市で開催された地域づくり成果報告会の様子



(盛岡市ホームページによる)

資料8 八戸市、遠野市、盛岡市の位置



資料9 八戸市，遠野市，盛岡市の人口に関する統計

	昼夜間人口比率 (2010年) (%)	第三次産業人口の割合 (2010年) (%)	東日本大震災前(2009年)と後(2012年) で比較した事業所数増減 (%)
A	97.5	49.6	6.7
B	106.4	82.8	- 3.1
C	105.1	73.2	- 8.0

注) 昼夜間人口比率 = 昼間人口 ÷ 夜間人口 × 100

(2010年国勢調査資料などにより作成)

	A	B	C
①	盛岡市	遠野市	八戸市
②	盛岡市	八戸市	遠野市
③	遠野市	盛岡市	八戸市
④	遠野市	八戸市	盛岡市

(これで地理Aの問題は終わりです。)